

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた指導方法等の改善計画の策定及び活用

東広島市立三ツ城小学校

1 本校の状況

【平均正答率の比較】

	国語 (%)	算数 (%)
三ツ城小学校	68	68
広島県	64	58
全国	60.9	56.4

本校の平均正答率は、2教科とも広島県及び全国の平均正答率より上回っている。しかし、分析の結果、成果と共に課題も見られた。

各教科の分析結果等の詳細については以下に示す通りである。

2 各教科の分析結果と改善のための方策（○成果、●課題、◇改善のための方策）

【国語】

- ほぼ全ての問題において、正答率が広島県平均・全国平均を上回ることができた。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができた。
- 資料を活用する等して、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかを見る問題において、正答率が広島県平均・全国平均を下回った。
- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があった。

【算数】

- 全ての問題において、正答率が広島県平均・全国平均を上回ることができた。
- 記述式の問題形式においても、無回答率は1%未満だった。
- 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすことに課題があった。
- データを二つの観点から分類整理する方法を知ることに課題があった。

【改善のための方策】

- ◇話す・聞く活動において、補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容について、どのような資料を用意すればよいかを検討し、必要な資料を用いながら自分の考えを伝える活動を行う。
- ◇引用箇所の『』による明示や出典の記載に留意し、自分の考えと引用部分を明確に分けながら、説得力のある文章の書き方について再確認する。
- ◇根拠をもって立式できるようにするために、図や言葉を用いて説明する場を設ける。
- ◇モジュール学習の時間を活用して、二次元表の読み取り方等、既習内容の復習に取り組む。
- ◇タブレット等を活用しながら個に応じた習熟学習を行い、基礎的な学力の確実な定着を図る。
- ◇単元テストで、個々の学力定着について把握し、指導方法の改善に生かす。
- ◇CRTを活用して、1年間の学力向上に向けた取組を検証し、継続的な取組を進める。

3 児童質問紙【児童実態】の調査の結果と改善のための方策

【学習状況（生活実態）調査の結果】（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」合計%）（抜粋）

		三ツ城小	広島県	全国
1	朝食を毎日食べている。	90.8	92.7	93.3
2	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	99.2	96.8	96.2
3	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	75.0	71.4	70.6
4	人の役に立つ人間になりたいと思う。	95.0	96.3	95.8
5	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。	82.5	77.2	77.6
6	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。	77.5	72.8	73.4
7	先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。	86.6	89.7	87.3
8	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている。	80.0	81.0	81.5
9	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	90.9	88.6	86.9
10	国語の勉強は好きである。	56.7	58.2	57.4
11	算数の授業は好きである。	60.0	57.7	57.6

【結果の分析と改善のための方策】

○課題解決に主体的に取り組むと回答した児童が、広島県平均・全国平均と比較して多い。

→立ちどまり、自ら学習のあしあとを見直す「振り返る」活動を行うことで、引き続き自ら学び続ける児童の育成を図る。

○いじめはどんな理由があってもいけないことだと回答した児童や、困りごとや不安な気持ちを学校の教職員にいつでも相談できると回答した児童が広島県平均・全国平均と比較して多い。

→いじめはどんな理由があってもいけないことだと全ての児童が理解できるように、いじめゼロ宣言の取組を進め、共感的な人間関係を育む。また、学期に2回教師と児童の個人面談を行い、困ったことを相談できる場を設定する。

●朝食を毎日食べていると回答した児童が、広島県平均・全国平均より少ない。

→朝食を毎日食べると答える児童を100%にするために、養護教諭と連携をとって保健指導を行うとともに、保健だよりを活用して保護者に啓発する。

●先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童が、広島県平均・全国平均より少ない。

→モジュール学習等の時間を活用し、つまずきやすい課題の定着状況を確認したり、テスト返却時の解説や解き直しの時間を確保したりすることで、基礎基本の確実な定着を図る。